バイオ炭を施用して生産した農産物「未来の土そだち®」千葉・茨城の食品スーパーで販売実証を実施中

11月1日（日）～ 11月30日（月）
ランドロームフードマーケット３店舗（西白井店・都賀店・龍ヶ岡店）

株式会社ぐるなび（本社:東京都千代田区、代表取締役社長:杉原章郎以下、ぐるなび）は、2022年度より国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）のグリーンイノベーション基金事業（食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発）に取り組んでいます。

このたび、2026年11月1日（日）から、株式会社ランドロームジャパンが千葉県と茨城県で展開するスーパーマーケット「ランドロームフードマーケット」の3店舗（西白井店、都賀店、龍ヶ岡店）に特設コーナーを設置し、全国の生産者がバイオ炭を農地に施用して生産した農産物の販売実証を開始しました。
これに伴い、11月2日にランドロームフードマーケット 西白井店にてスタートイベントを開催しましたので、その模様をご報告します。





■ 販売実証スタートイベントレポート

・環境価値を“見える化”する「未来の土そだち®」とは
イベントでは、株式会社ぐるなびより、本取り組みの実施背景および適合マーク「未来の土そだち®」についての紹介を行いました。農地に「バイオ炭」を施用することで炭素を土壌に貯留し、温室効果ガスの削減につなげ、さらにぐるなびと農研機構が共同開発した「環境価値評価システム（※1）」を活用し、標準的な栽培（※2）と比較して温室効果ガス削減への貢献率が10%以上と評価された農産物に「未来の土そだち®」のラベルを貼付して販売します。
普段の買い物で環境に配慮した食品を選ぶことが、脱炭素社会の実現に向けた具体的なアクションにつながることを訴求するとともに、期間中に購入者や売場に立ち寄られたお客様へのアンケート調査を実施し、消費者の受容性や販売上の課題を検証します。

（※1）「環境価値評価システム」とは、ぐるなびと国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）の共同開発システム。農薬、肥料、バイオ炭施用などの記録簿入力内容を利用することで、農作物の環境価値を簡便かつ客観的に評価を行えるシステム。

（※2）「標準的な栽培」とは、農研機構の土壌のCO2吸収「見える化」サイトで採用している標準的な栽培管理（https://soilco2.rad.naro.go.jp/q8）を元に算出しており、地域ごとの慣行栽培の基準とは異なります。

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>
株式会社ぐるなび　広報グループ　TEL:03-3500-9700　MAIL:pr@gnavi.co.jp

・環境配慮の価値を売り場から発信

同店を運営する株式会社ランドロームジャパン 経営企画室次長／管理本部 店舗開発部室長の村越陽司氏は、「環境への配慮という、これまで目に見えにくかった価値が売り場で伝わる。『未来の土そだち®』のラベルを機に興味を持ってくださるお客様もいらっしゃるはず」と、販売実証への期待を述べました。



・地域課題の解決とおいしさの両立

生産に携わった北総クルベジファーマーズの喜屋武誠司氏は、販売する野菜の説明を行いました。
10年以上前から独自で里山保全活動で切り出された竹を活用したバイオ炭を使用していることについて紹介。また、バイオ炭による土壌改良効果として「野菜の根の張りがすごく良くなり、イモの大きさのバラつきがなくなり味も良くなった」と、品質面での確かな手応えを明かしました。

・消費者の選択が農業の未来をサポート

喜屋武氏は、「消費者の方が積極的に選んでくださることで、炭素貯留や農地保全などの取り組みの参加者になってもらえる」と呼びかけました。
温室効果ガス削減に貢献した野菜を消費者が積極的に選ぶことは、脱炭素社会の実現と農業の未来への大きなサポートにつながります。

ぐるなびは今後も、食を通じた持続可能な社会の実現に向けて、生産者、小売事業者、消費者を結ぶ新たな価値創造に取り組んでまいります。





■バイオ炭による農地炭素貯留を実現した農地で生産された農産物の販売実証

販売実証期間：2026年11月1日（日）～ 11月30日（月）

販売する農産物：さつまいも（紅はるか）、じゃがいも（キタアカリ）、ブロッコリー、大根、
温州みかん等　3～5品目（予定）

販売実証店舗：

ランドロームフードマーケット西白井店
（千葉県白井市根1696-15）



ランドロームフードマーケット都賀店
（千葉県千葉市若葉区西都賀2-31-3）



ランドロームフードマーケット龍ヶ岡店
（茨城県龍ケ崎市松ケ丘1-1）



■協力企業

株式会社ランドロームジャパン　https://landrome.jp/
有限会社船昭　https://www.funasho.com/

■協力生産者



株式会社ひのでや
（茨城県）
濵田氏
https://apc-hinodeya.co.jp/



株式会社Bブリッジ
（岐阜県）
髙橋氏
https://bbridge-gifu.jp/



株式会社地域法人無茶々園
（愛媛県）
森下氏
https://www.muchachaen.jp/





北総クルベジファーマーズ（千葉県）
喜屋武氏　新井氏
https://home.tsuku2.jp/storeDetail.php?scd=0000254502



農事組合法人あびろみ
（岐阜県）
橋本氏

■ぐるなびが参画するグリーンイノベーション基金事業の概要

プロジェクト名：高機能バイオ炭等の供給・利用技術の確立
概要：イネもみ殻などの農業副産物を炭化して得られるバイオ炭は、炭素を比較的安定な形で土壌中に貯留できることから、農地におけるCO2除去・炭素貯留への寄与が期待されており、脱炭素に向けた有効な手法の一つとして注目されています。
本事業では、その普及を目的として、土壌中の養分循環の促進や作物生育の改善に寄与する有用微生物の機能を活用した高機能バイオ炭などの開発を進めます。
また、これを用いて栽培した農産物の環境価値の評価手法を確立し、有利販売につなげることで農業者の導入インセンティブを高める取り組みを行います。

事業期間：2022年度～2030年度（予定）
NEDOグリーンイノベーション基金事業サイト：
https://green-innovation.nedo.go.jp/project/agriculture-forestry-fisheries-industries/scheme/